

「教育から徳島を誇り高き場に」

「徳島って何もないよなあ。」

ある時、友人がため息交じりに言いました。確かに、大阪や東京などの大都市のように、キラキラしたトレンドのお店も、数分ごとにやってくる電車も、空まで届きそうな高いビルも、徳島にはありません。

しかし、季節によって表情を変える海や山、ビルよりも高く澄んだ空などの多くの自然や、耳を澄ますとどこからか聞こえてくるぞめきの音や、伝統的建造物が並ぶ風情ある町並み……。少し視線を変えれば、徳島には大都市に負けない、素晴らしきや魅力がある。

そんな風に思っていた私は、

「ほなけん徳島って嫌いじゃ。早よう出て行きたい。」

などという友人たちの言葉に、人知れず大きなショックを受けていました。

時が経ち、成長していくにつれ、私はぼんやりと、「徳島の良さを、もっと多くの人に知ってもらいたい」という思いを抱くようになっていました。

高校生になり、私は子ども会活動と出会い、ジュニアリーダーとしてボランティア活動を始めました。ジュニアリーダーは、地域の子どもたちのお兄さん、お姉さん役となり、子どもたちの課外活動がスムーズに進むようにサポートする役割です。そのため、私は高校の三年間を通じて、数え切れないくらい子どもたちと活動を共にしてきました。同じ子どもたちと一緒に活動できるのは、たった一日二日の限られた時間でした。しかし、子どもたちはその短時間に、幾度となく私たちに成長の瞬間を見せてくれました。そのような

子どもたちとの活動を続けるうちに、私は「教育学部に進学したい」という夢をもつようになりました。

そのような活動の中で、子どもたちの姿に自分の幼い頃を重ね合わせるようになっていた私は、ふと、あの時の「徳島には何も無い。嫌い。」と言った友人の言葉を思い出しました。

「今、目の前にいる子どもたちも、生まれ育ったこの地が嫌いなのだろうか」「徳島の良さをもっと知ってもらおうということとは、実現できないのだろうか」などと、やりきれない思いが、私の中でくすぶっていました。


私が「地方創生」という言葉に出会ったのは、そんな時でした。少し視野を広げてみると、多くの人が「徳島をより良くしたい」という強い思いをもち、様々な活動に取り組んでいることに気がきました。みんなが町内を

掃除したり、自ら地方創生の団体や勉強会を立ち上げたり、それぞれが得意とすることを武器に、できることを進めていたのです。この時から私には、教育という分野で地方創生に取り組みたいという目標ができました。

私は今、教育学部に進み、教育制度や教育政策に関することを学んでいます。また、それと同時に、徳島の魅力を発信する活動や、子ども会の活動にも引き続き携わっています。

これらの活動や学びを通して、子どもたちが、自分の故郷である徳島に、誇りをもてるような政策を考えていきたいです。また、徳島を愛し、生まれ育ったふるさとに自信がもてる子どもたちを育てていきたいと思いません。

最後に、これまで育ててくれた両親や、支えてくださった先生方、地域の方々、ずっと



そばで励まし合ってきた友人に感謝し、これ
からもずっと、自分の目標に向かって、努力
を続けていきます。